

可愛保育園 6月園だより

色とりどりの紫陽花に梅雨の訪れを感じる季節となりました。どうしても室内での活動が多くなる時期でもあるので、保育園でも色々工夫して、子どもたちが身体を動かせるようにしていきたいと思います。ご家庭にお願いしたいのは、衣服の調節をこまめに行うので、お洗濯です。それに伴い、持って帰った分の補充をお願いいたします。意気揚々と、着がえようとしていて、カゴの中ないと、残念そうな表情になるものです。空調に頼り過ぎず汗をかいたら着替える習慣を身につけていきたいと思います。

月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5
			体操教室①		
7	8	9	10	11	12
避難訓練		英語教室①	全園児健診 リトミック① 体操教室②		
14	15	16	17	18	19
			体操教室③		
21	22	23	24	25	26
		英語教室②	リトミック② 体操教室④		
28	29	30			
誕生会					



予定していた、保護者会が行えなかったため、お母さんから寄せられたお悩みをピックアップしてご紹介します。
(NHK すくすく子育てより)

お悩み その1-保育園から帰って、家でわがママが多くみられるがどうしたらいい

こどものわがママは、親に甘えたい気持の表れだと思います。例えば、こどもが甘えてくる時、何回も「抱っこして」とねだってくることがあります。抱っこしておろした後も、「もう一回抱っこ」とねだってくる。実は、そのやりとりの中で、こどもは交渉力を身につけていきます。こどもたちの中には、「わがママはこのぐらいでやめておこう」と言える子がいます。おそらく、親に甘える中で、「いい加減にしない」と言われたり、「もう一回おまけだよ」と言われたりそのようなやりとりを楽しんでいるのかもしれませんが、甘えを受け止めてもらえることが、外での頑張る力になる。

宮里 暁美(お茶の水大学教授)

こどもにとって保育園は「社会」です。その場所で、時には自分にとって難しいことを、どう乗り越えようかと葛藤しています。家に帰ってくるころには、とても疲れているはずですが、そして、家がほっとできる場所だからこそ、甘えが出てくるのです。そこで甘えを受け止めてもらえることが、外での頑張る力になります。

親の気持ちをちゃんと伝えることも必要。こどものわがママに、親が付き合いきれないこともあります。そんな時は、親の「嫌だ」という気持ちを、こどもに伝えることも必要です。「わがママで、人が嫌な気持ちになることもある」と、こどもが知ることも大事なことです。

大豆生田啓友(玉川大学教授)

お悩み その2-食事について

食事は1日3回、それが一生続きます。だからこそ、お母さんが頑張り過ぎているところを見せて、こどもに「食事はすごくつらいもの」だと、思わせたくありませんよね、これ以上頑張るとそのように思わせてしまいそうだと感じたら、ちゃんと手を抜きましょう。こどもにとって、お母さんが笑顔でいてくれることが、最高のおかずになります。

井桁 洋子(保育士)

こどもは、おとなの食べ方を見ながら多くのことを学びます。大変なことです、一緒に食事することを考えてみましょう。「おいしいね」と共感あうこともできます。むしろ、そのほうが、早道かもしれません。こどもと親が同じものを食べることも考えてみてください。3歳であれば、大人の料理でも薄味なら大丈夫です。みそしるに具をいっぱい入れれば、それだけで栄養満点です。お魚も食べやすいですね。例えばムニエルにして「半分にしようね」と親子で分ければ、こどもは、結構喜んで食べたりするものです。赤ちゃんの分は、味付けをする前に取り分けず。少しくらい塩分があっても後で薄めるくらいでもいいと思います。

太田 百合子(管理栄養士)



6月10日(木)は、園医によるプール前健診です。